

第 278 回昭和の森観察会

春を待つ植物の準備を見てみよう

佐藤 一枝 (千葉市)

日 時： 2015 年 2 月 15 日 (日) 13 時～15 時

参加者： 16 名 (大人 14 名+子ども 2 名)

指導員： 14 名

担当指導員： 奥村 昭 佐藤 一枝

柔らかい春の光、でも ♪ 春は名のみ風の寒さや ♪ のごとくの日和です。

太陽の広場の 2 本のイヌシデには冬芽がびっしりついて、空にその美を誇っている。

冬芽の様子は外側だけを観察し葉痕と共に楽しむことが多い。でも“中はどうなっているんだろう？ 見てみたい”と思うのも当然である。が、ここで芽を取ってしまう。そこで冬芽の中を撮った写真を見ていただいた。外側はすまし顔を見せられているが、中は確り薄毛をまとい、防寒対策万全。

コナラ・クヌギはお馴染みの木。どれが冬芽？ 枝を引き寄せ、まだ付いている枯葉をかき分けて「ここを見てください」と言うと、「これが冬芽！！」と。鱗の芽を重ね着の様子・葉痕をルーペを使って観察。クヌギの冬芽はすぐ探せて観察。芽の形・色なども意識して。

カシワの芽は大きくて毛深い。丸い芽のようだが稜がある。どんぐりが根付いているのを確認し、コナラのどんぐりも一緒に落ちているので見比べた。ハリエンジュの芽はどこに？ 2 本の刺の間にある葉痕の下に芽が隠れている。わずかな隙間があり、芽が見えるかもとルーペで真剣に覗き込んでいる。アジサイは裸で元気!! サンタクロースみたいで可愛いと楽しんで見ていた。コブシやハクモクレンは硬い毛皮のコートを脱ぎ捨て、フワフワの柔らかいコート姿でした。大きなトチの芽は茶色の光り、蜜なのかな？ 甘くなくてヤニ状。葉痕も大きく、赤ちゃんのあぶちゃんみたい。実殻や種子を拾って嬉しそう…すぐ拾う自分と重なってこそばゆい。ユリノキの冬芽は、何の形に見えますか？ 「靴ベラ」の答えに返す言葉なし。空を見上げると、ホオノキの芽が光っていた。チャンチンは葉痕がいっぱい。芽は高くて見えないので、写真で紹介。トーテンポールみたいと言う。

馥郁とかおる広場で、ロゼット…寒い冬を越せたその秘密は？ 葉を重ねないように放射状に広げ太陽の光を受けている。地面にへばりつき地熱も受けやすく、寒風をやり過ぎすでしょう。冬の光をできるだけ多く受け養分を作り、春に芽を出す準備している姿です。葉や地面に手を当てて、その温もりを体感。

2 cm位首をだし、カントウタンポポが咲き出しました。オオイヌノグリの青い小花が道裾をレースのように飾り、サンシュユも綻び、春一番の温もりを受けました。



コブシの冬芽



チャンチンの葉痕

☆ 「冬芽に夢中になった。楽しかった。また参加したい」と感想を頂きました。